

# 子供に関するエビデンス



# 子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」

- 従来の行政分野の枠組みにとらわれることなく、子供に関する実態や意識の変化を定点で把握
- 長期にわたって同一年齢の子供とその保護者に同一の質問を行い、データの蓄積及び経年分析を行う
- 調査結果は、学識経験者等による分析・検証を行い、課題や行政ニーズを明らかにした上で、実効性のある政策を展開

## 概要

### 調査対象：

3歳児	小学3年生	小学5年生	中学2年生	17歳
—	本人	本人	本人	本人
保護者	保護者	保護者	保護者	保護者

7,500世帯  
(1,500世帯×5区分)

- 抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- 調査手法：郵送法（郵送配布、郵送回収・WEB回答併用）
- 調査期間：2023年5月18日～6月6日
- 回収率：38.8%



## 子供の意見を聴く工夫

- 子供に伝わるよう、成長・発達段階に応じ、設問の表現を変更



(小5・中2・17歳) 自分の意見が採用される



(小3) 自分の意見が通る

(中2・17歳) ボランティアをしたいと思う



(小3・5)  
ボランティア（お金をもらわず、自ら進んで家族以外の人のために手伝えること）をしたいと思う



# 子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」

## 主な調査結果

- 全体的な傾向として、自身への**肯定感が高く、人間関係、自身が置かれている環境に満足している子供が多い**
- 具体的には、**子供自身の「幸福度」では、最も高い「10」の評価をした割合が約4割**  
「大人たちが子供の話をきちんと聞いてくれる」と回答した割合が約8割、「東京が好き」と回答した割合が約9割
- 一方で、**学年が上がるほど肯定的な回答が低くなる傾向が見られる**ほか、「**育児を男女で同じくらいするべき**」と回答した割合が**男性の方が女性よりも10ポイント以上低く**、ギャップがある実態も明らかとなった

## 【設問例】

### ① 子供自身に関する分野

- ・今の自分は幸せか
- ・今の自分が好きか
- ・家族との関係は良好か
- ・今悩んでいることはあるか

### ② 子供の安全安心に関する分野

- ・住む地域で危険な目にあったことはあるか

### ③ 子供の遊び場・居場所に関する分野

- ・普段、何をして遊んでいるか
- ・居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）はどれか
- ・東京が好きか
- ・大人たちが子供の話をきちんと聞いてくれるか

### ④ 子供の学び・成長に関する分野

- ・社会課題について関心があるか
- ・20年後にどういったことを叶えたいか
- ・学ぶことが楽しいか

### ⑤ 子育て家庭支援に関する分野

- ・住む地域は子育てに良い場所か（保護者）
- ・子育てに関する情報をどこから得ているか（保護者）
- ・子育ての相談相手の不足に悩んでいるか（保護者）

### ⑥ 子供の意見表明、参加、権利擁護に関する分野

- ・自分の意見を他の人にしっかり言えるか
- ・困ったり悩んだりしたとき、相談できる人はいるか
- ・東京都こども基本条例について知っているか

### ⑦ 社会的情勢の変化に応じた分野

- ・勉強に関して、新しい生活様式は良い影響をもたらしたか

### ⑧ 分析にあたって必要となる基本情報等

- ・スマートフォンが自由に使えるか
- ・家庭内での「家事・育児」の分担はどのようになっているか（保護者）

## 主な調査結果【子供の意識】

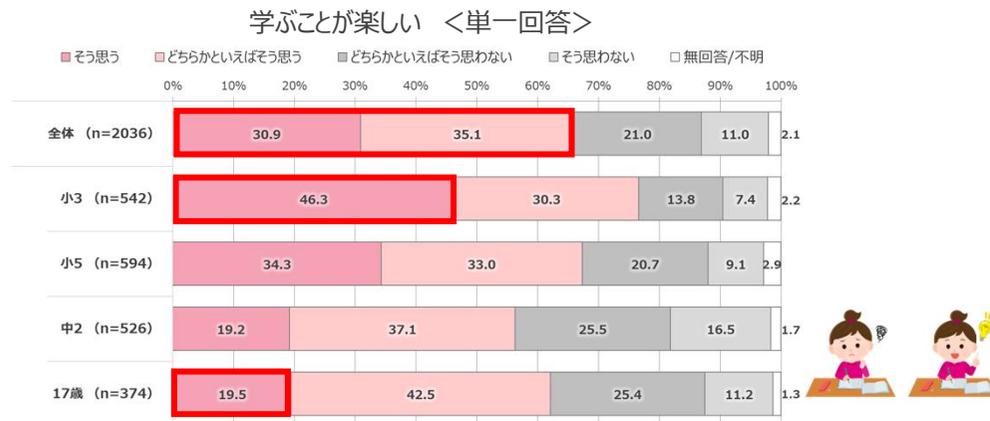
自分は幸せかについて、「10」（とてもあてはまる）の回答が約4割で最も高い。しかし、年齢とともに減少し、17歳は約2割



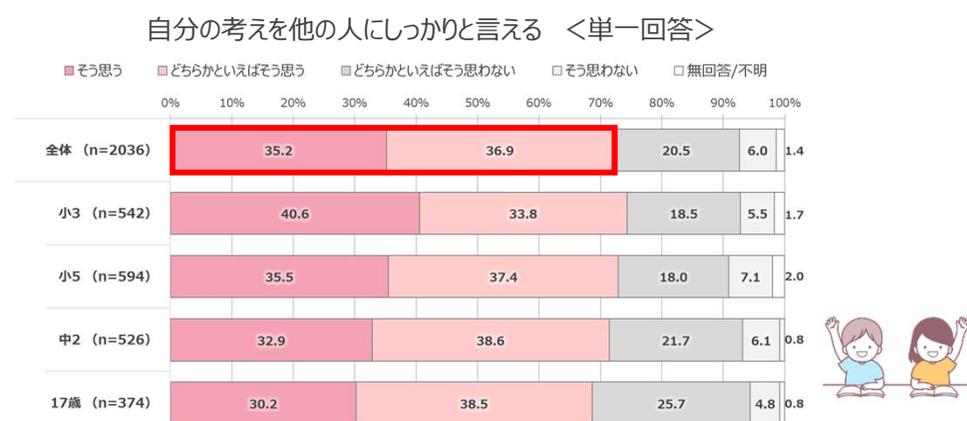
自分が好きかについて、「10」（とてもあてはまる）の割合が約3割で最も高い。しかし、年齢とともに減少し、17歳は約1割



学ぶことが楽しいと思う（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）割合は約7割。「そう思う」割合は小3は約5割、17歳は約2割



自分の考えをしっかりとと言える（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）割合が約7割



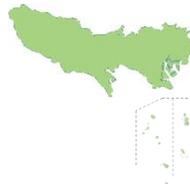
※小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならないことがある

# 子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」

## 主な調査結果【子供を取り巻く環境①】

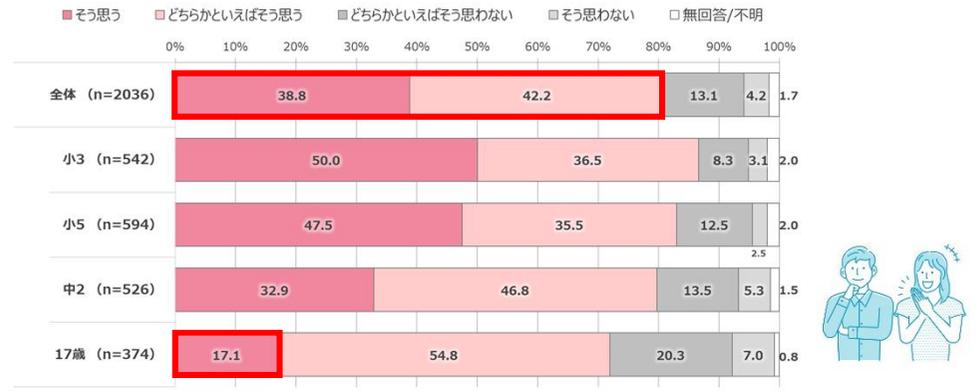
東京が好き（「好き」+「どちらかといえば好き」）と回答した割合が約9割。  
理由は人の優しさ、都市インフラの充実、都市と自然の二面性など

東京が好きか <単一回答>



大人が話を聞いてくれると思う（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）割合は約8割。ただし、「そう思う」は、17歳では2割未満

大人たちが子供の話をきちんと聞いてくれる <単一回答>



相談できる人数は、「5人以上」が約5割と最も高い。  
一方で、「0人」は、小3では2.6%、17歳が8.3%

相談できる人数 <単一回答>



スマートフォンが利用できる（制限あり含む）と回答した割合は約7割。小3で5割以上、17歳では9割以上

スマートフォンの使用状況 <単一回答>

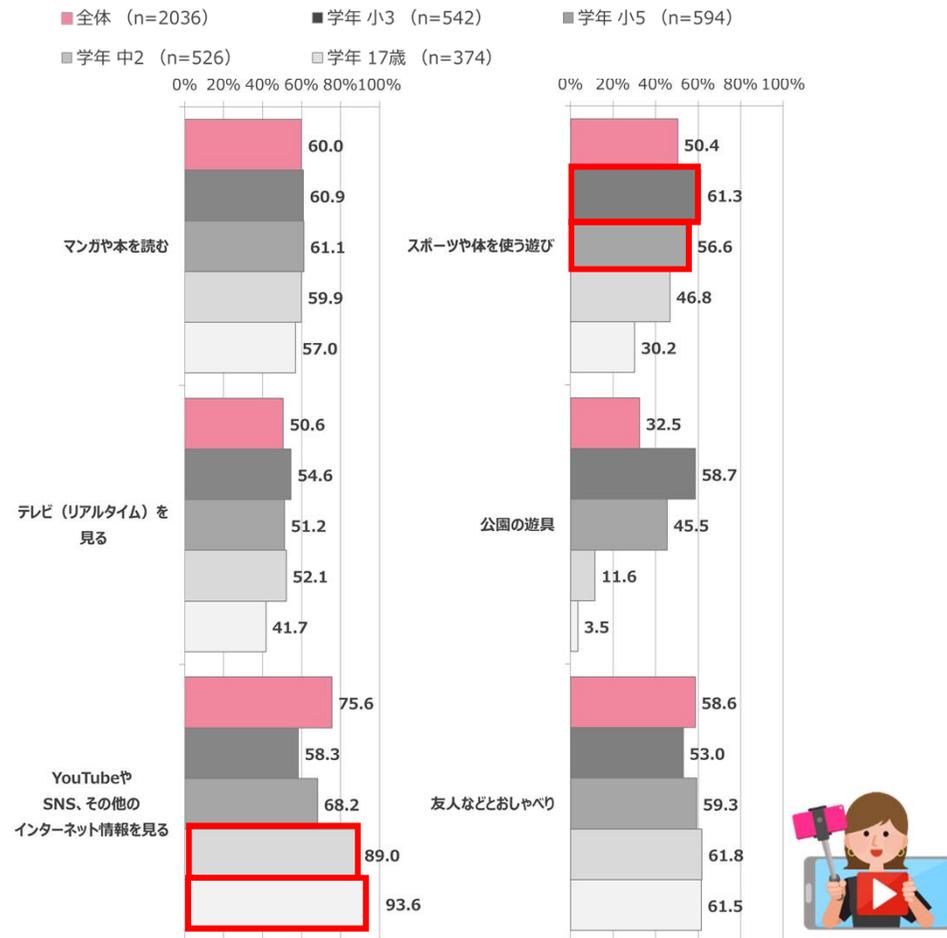


※小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならないことがある

## 主な調査結果【子供を取り巻く環境②】

普段の遊びとして、小3と小5は「スポーツや体を使う遊び」が約6割、中2と17歳は「YouTubeやSNS、その他のインターネット情報を見る」が約9割

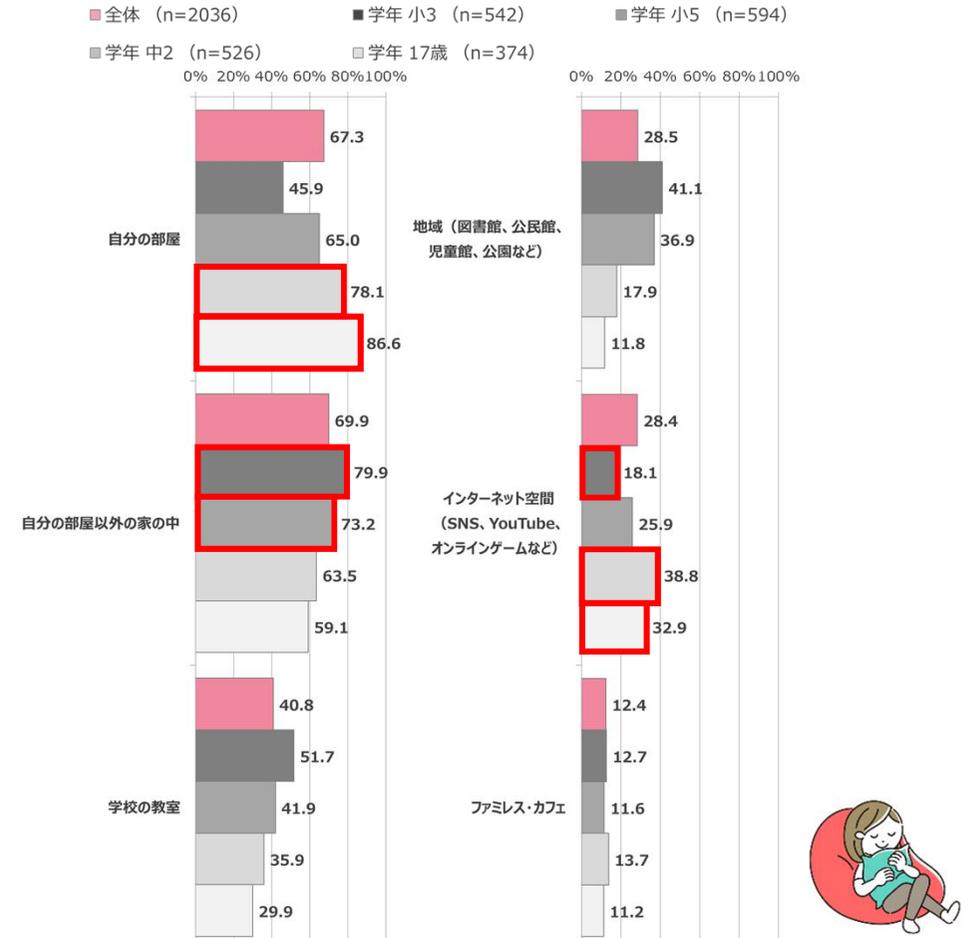
普段遊んでいること <複数回答>



※調査結果から一部抜粋

居場所として、中2と17歳では「自分の部屋」、小3と小5では「自分の部屋以外の家の中」が最も高い。「インターネット空間」は小3では2割未満だが、17歳と中2では3割超

居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)はどれか <複数回答>



※調査結果から一部抜粋

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならないことがある

# 子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」

## 主な調査結果【子育てを取り巻く環境】

住んでいる地域が子育てしやすいと思う（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）割合は約9割

あなたの住む地域は、子育てに良い場所である【保護者】 <単一回答>



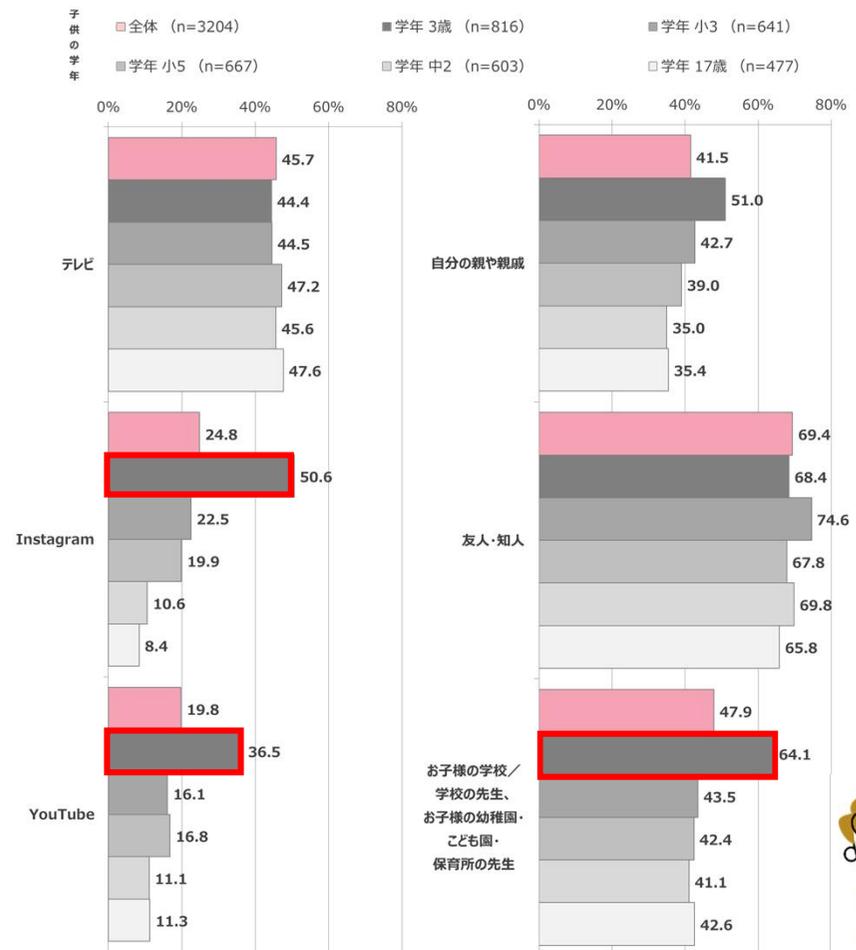
子育ての相談相手の不足に悩んでいる（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）と回答した割合は、約3割

子育ての相談相手の不足【保護者】 <単一回答>



子育ての情報をどこから得ているかについて、3歳の保護者は、他の学年の保護者と比べ、SNSや幼稚園等の先生から情報を得ている割合が高い

あなたは子育てに関する情報をどこから得ていますか【保護者】 <複数回答>



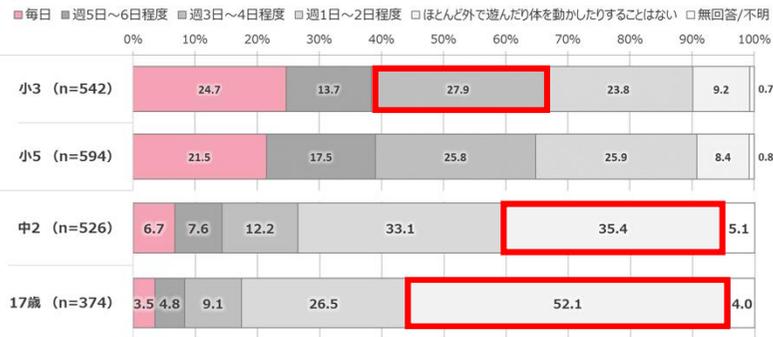
※調査結果から一部抜粋

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならないことがある

# 主な調査結果【子供をめぐる課題・男女ギャップ・国際比較】

体を動かす日は、小3は「週3日～4日程度」が最も高いが、17歳と中2は「ほとんど外で動かしたりすることはない」が最も高い

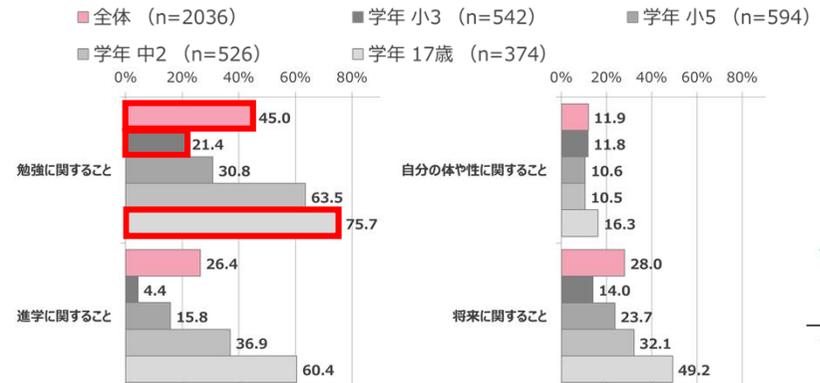
遊んだり体を動かす日 <単一回答>



※中2・17歳は「部活動以外」の結果を掲載

悩んでいることとして、「勉強に関すること」が約5割と最も高い。このうち小3では約2割、17歳では約8割

今、悩んでいること <単一回答>



※調査結果から一部抜粋

育児を男女同くらいするべき(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は約9割。ただし、「そう思う」は、男性の方が10ポイント以上低い

男の人と女の人は、育児を同くらいするべきだと思う <単一回答>



「社会課題に関心がある」は約7割と諸外国より高い一方で、「社会課題について議論している」は約4割と諸外国より低い

社会貢献意欲 <単一回答>

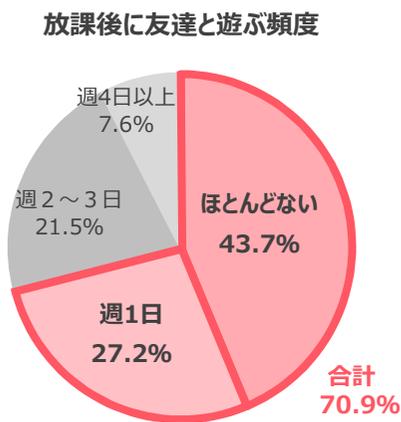
	ボランティア活動に参加したい	社会課題について関心がある	社会課題について議論している	自分の行動で社会を変えられる	留学や他国で働きたい
日本	49.7%	50.0%	34.2%	26.9%	41.7%
東京都 (本調査)	55.6%	69.3%	39.5%	47.8%	60.2%
アメリカ	70.4%	51.7%	62.1%	58.5%	60.9%
イギリス	64.2%	49.7%	63.9%	50.6%	66.2%
中国	85.3%	66.1%	76.6%	70.9%	66.0%
韓国	70.7%	61.3%	64.5%	61.5%	71.6%
インド	78.1%	46.1%	65.2%	78.9%	70.9%

※「18歳意識調査『第46回一国や社会に対する意識(6か国調査)ー』」で「はい」と回答した割合と、本調査で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計を比較

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならないことがある

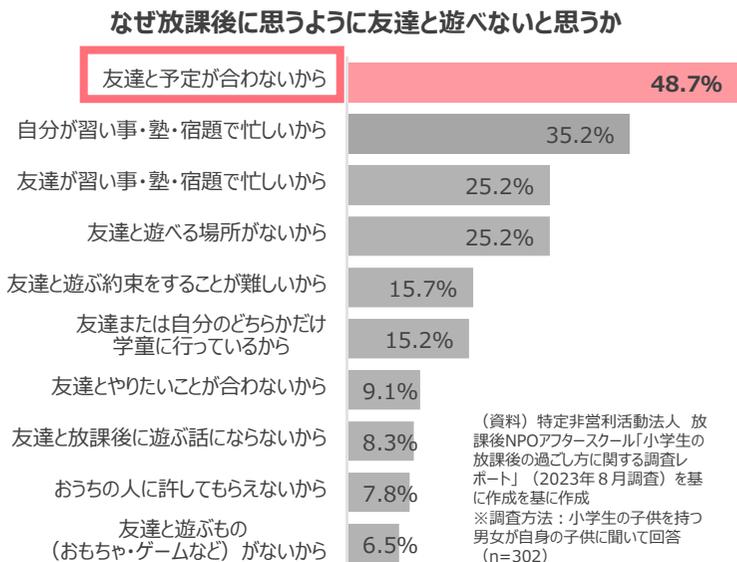
# 社会環境が変化中での子供の「今」

➢ 放課後に友達と遊ぶ頻度が「週1日以下」である子供が約7割もいる。



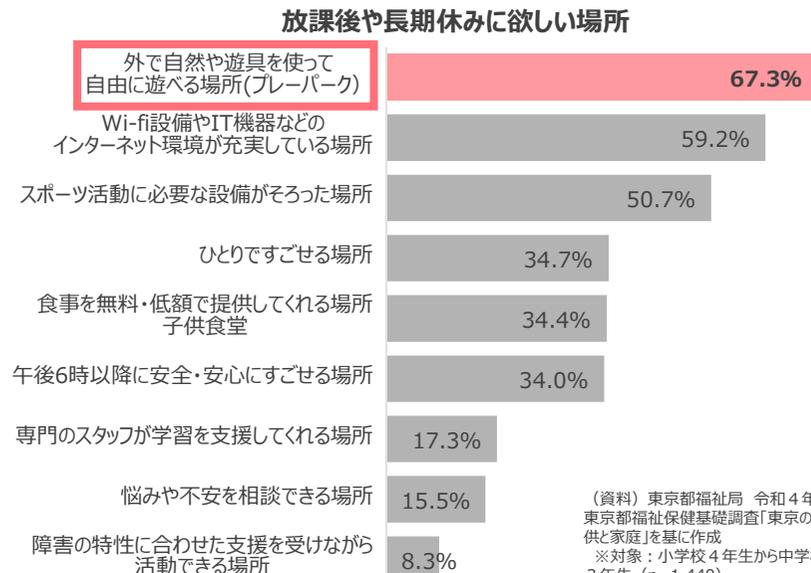
(資料) 特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール「小学生の放課後の過ごし方に関する調査レポート」(2023年8月調査)を基に作成  
※調査方法: 小学生の子供を持つ男女が自身の子供に聞いて回答 (n=302)

➢ 放課後に友達と思うように遊べない理由は、「友達と予定が合わないから」が最多



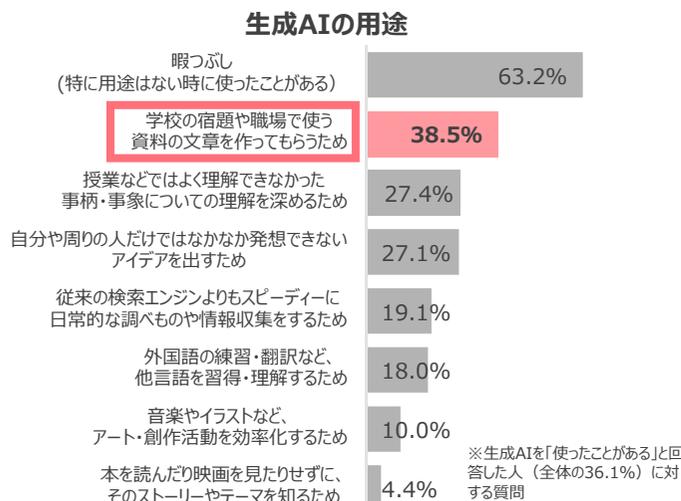
(資料) 特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール「小学生の放課後の過ごし方に関する調査レポート」(2023年8月調査)を基に作成  
※調査方法: 小学生の子供を持つ男女が自身の子供に聞いて回答 (n=302)

➢ 約7割の子供が自然の中で自由に遊べるプレーパークが欲しいと感じている。



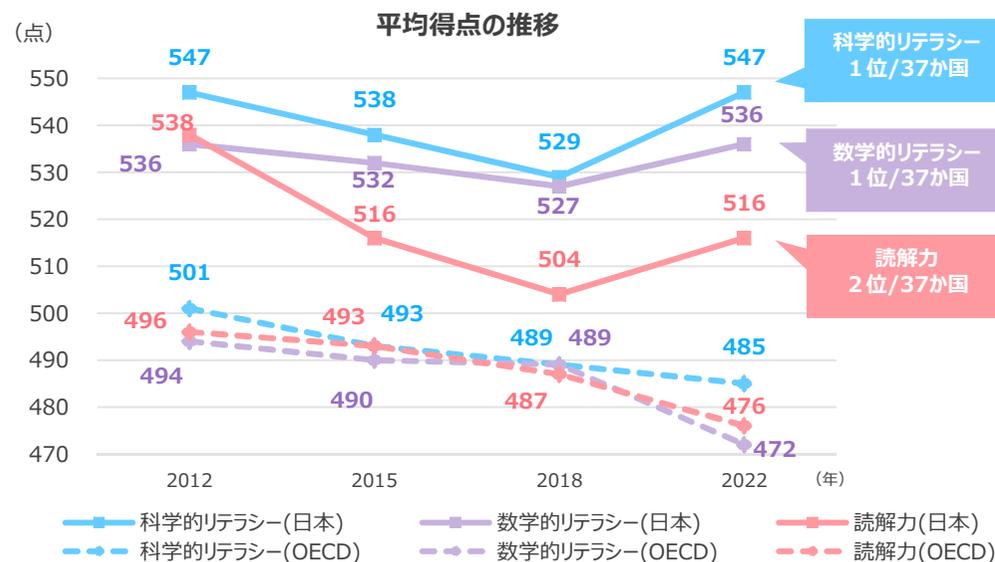
(資料) 東京都福祉局 令和4年度東京都福祉保健基礎調査「東京の子供と家庭」を基に作成  
※対象: 小学校4年生から中学校3年生 (n=1,440)

➢ 17～19歳の約4割が学校の宿題等の文章作成のために生成AIを使用したことがある。



(資料) 公益財団法人日本財団「18歳意識調査『第57回-生成AI-』」(2023年8月調査)を基に作成  
※対象: 全国の17歳～19歳男女 (n=1,000)

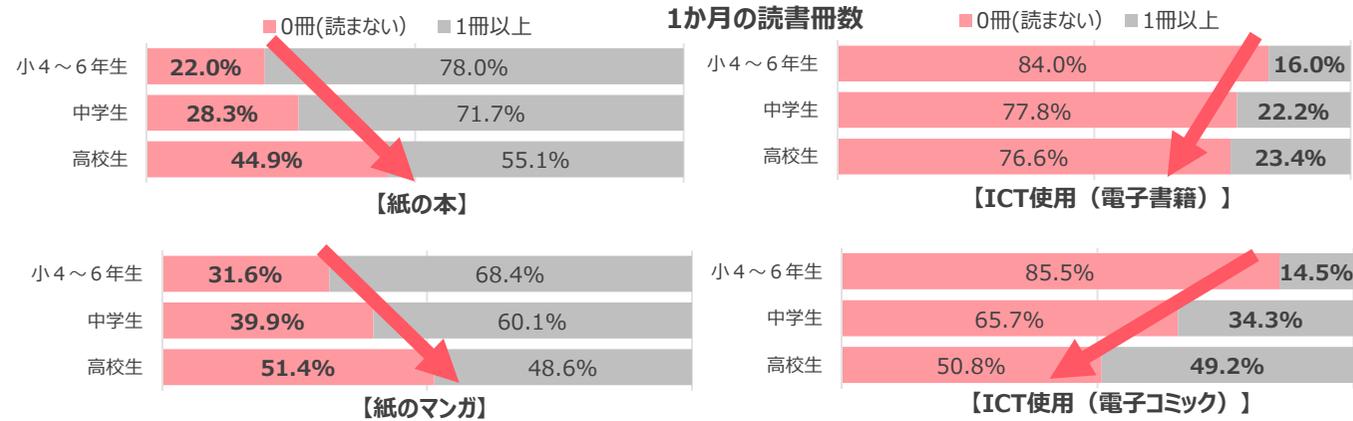
➢ PISA2022調査において、OECD加盟国中、日本は全3分野で世界トップクラス



(資料) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント」を基に作成

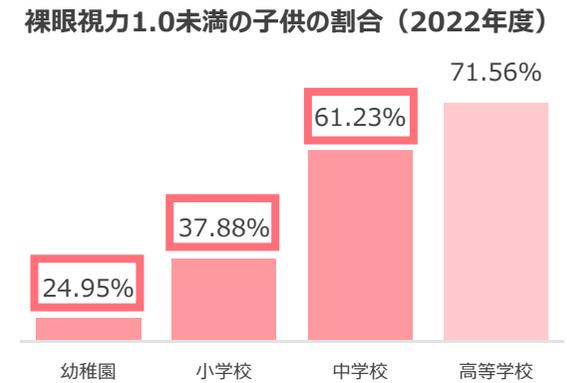
【PISA調査について】  
 ・義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査  
 ・「読解力」、「数学的リテラシー」、「科学的リテラシー」の3分野について調査  
 ・2022年調査では、「数学的リテラシー」を中心分野として重点的に調査

➤ 年齢が上がるにつれ、紙の本やマンガを読む機会が減り、ICT機器を使用して読書をする経験が増加



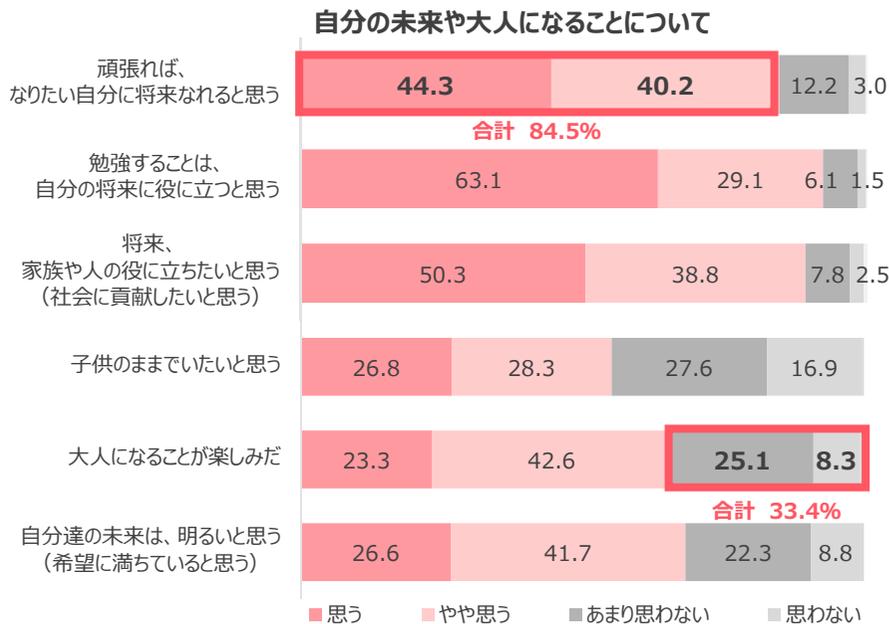
(資料) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの ICT 利用に関する調査 2023」を基に作成 n=小4~6年生 3,849 / 中学生 3,097 / 高校生 2,236

➤ 視力1.0未満の子供の割合は、中学生は約6割、小学生は約4割、幼稚園児は約4人に1人



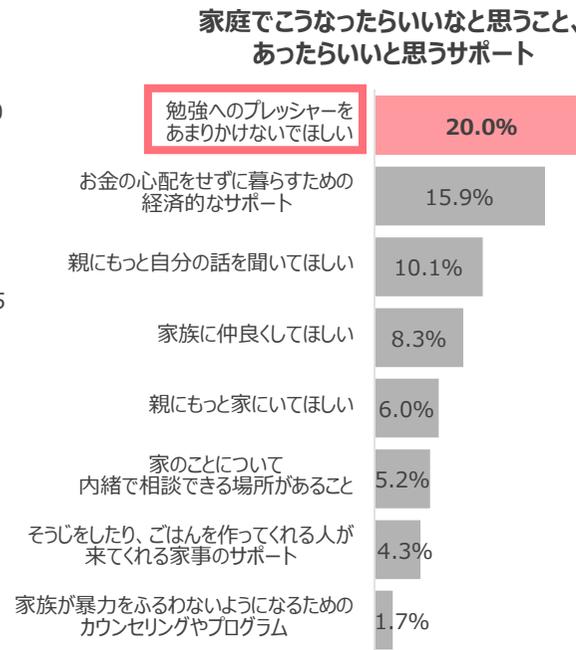
(資料) 文部科学省「令和4年度学校保健統計」を基に作成 n=3,220,411

➤ 「頑張ればなりたい自分に将来なれると思う」と考えている割合が8割を超えている一方で、「大人になることが楽しみだ」と思わない割合は3割を超えている。



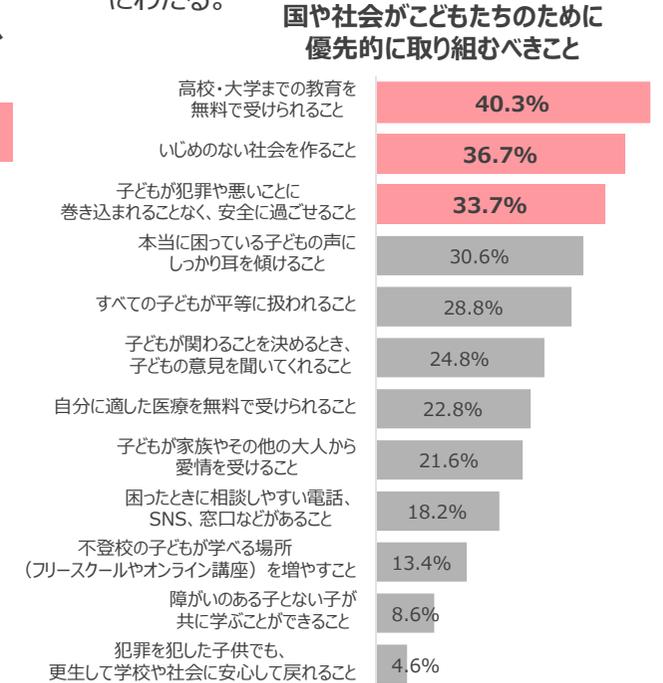
(資料) 東京都福祉局 令和4年度東京都福祉基礎調査「東京の子供と家庭」を基に作成 ※対象：小学校4年生から中学校3年生 (n=1,440) ※「無回答」の回答結果は表示していない。

➤ 家庭に望むことは、「勉強へのプレッシャーをあまりかけないでほしい」が最多



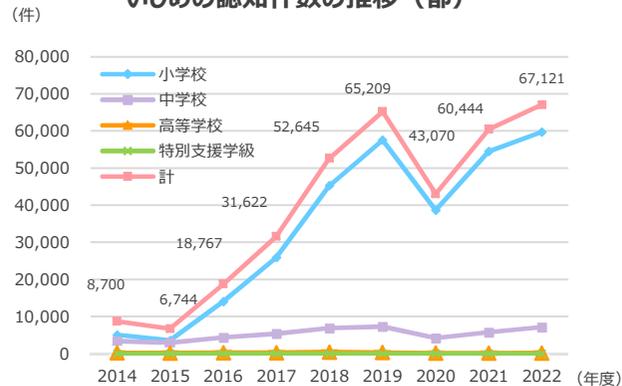
(資料) 公益財団法人日本財団「子ども1万人意識調査」(2023年3月調査)を基に作成 ※対象：10~18歳 (n=10,000)

➤ 国や社会に望むことは「教育の無償化」や「いじめのない社会」「子供の安全」など多岐にわたる。



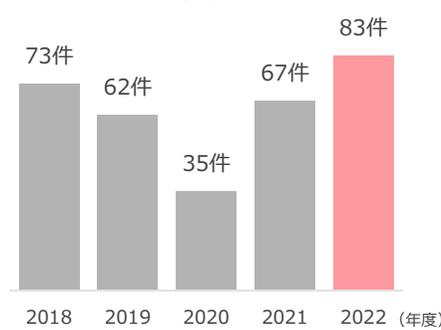
# 社会環境が変化する中での子供の「今」

## いじめの認知件数の推移（都）

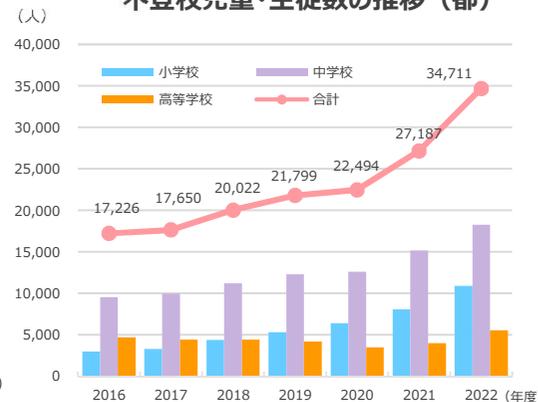


（資料）東京都教育委員会「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」及び東京都生活文化スポーツ局「都内私立学校の児童生徒の問題行動・不登校等の実態」を基に作成

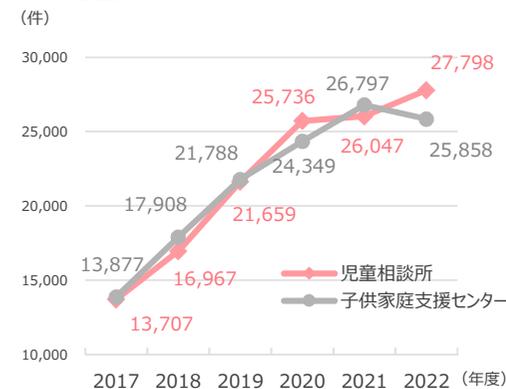
## いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数（都）



## 不登校児童・生徒数の推移（都）

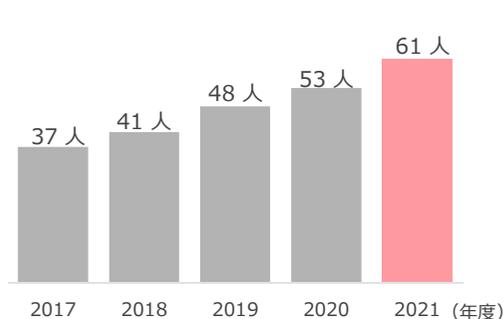


## 児童相談所における対応件数（都）



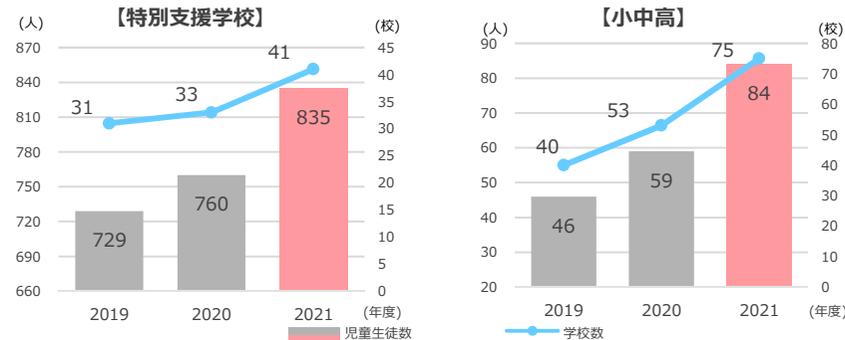
（資料）東京都児童相談センター「虐待相談のあらまし 2023年（令和5年）版」を基に作成

## 小中高生の自殺者数の推移（都）



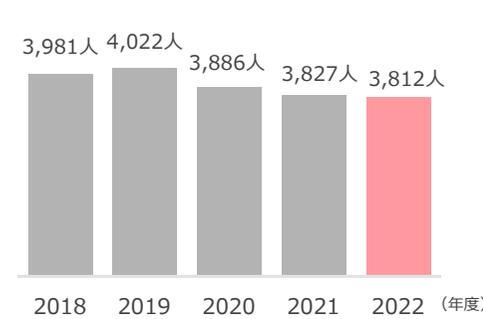
（資料）東京都保健医療局「東京都自殺総合対策計画（第2次）」を基に作成

## 都内公立学校における医療的ケア児の児童生徒数と当該児童生徒が在籍する学校数の推移



（資料）文部科学省「学校における医療的ケアに関する実態調査」を基に作成

## 社会的養護のもとで育つ児童数（都）



（資料）東京都福祉局・保健医療局「福祉・衛生 統計年報」を基に作成

## 日本語指導が必要な児童・生徒数（都・公立学校）

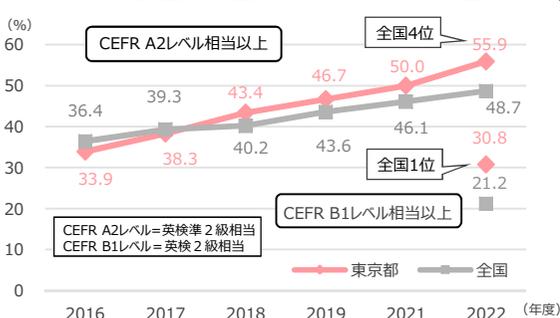


※グラフ上段：日本国籍/グラフ下段：外国籍

（資料）東京都教育委員会「日本語指導が必要な児童・生徒への指導」を基に作成

## 都内公立高校生の英語力の推移

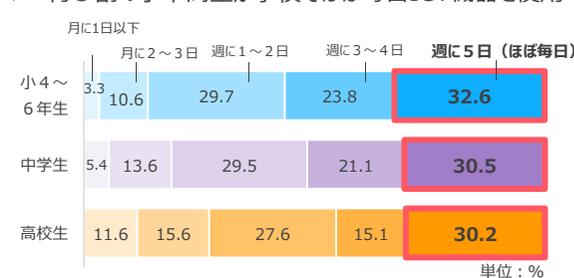
都内公立高校生の英語力は着実に向上



（資料）文部科学省「令和4年度『英語教育実施状況調査』の結果について」を基に作成

## 学校でのICT機器の使用頻度（勉強目的）

約3割の小中高生が学校でほぼ毎日ICT機器を使用



n=小4～6年生 3,824 / 中学生 3,037 / 高校生 1,959

（資料）東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子供のICT利用に関する調査2023」を基に作成

## 体力合計点

体力は回復基調だがコロナ以前の水準には至らず



（資料）スポーツ庁「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（概要）」を基に作成